vinetur

Malteries Franco-Belges、ベルギーの特殊麦芽生産を2027年1月にピティヴィエへ移転する案を検討

Malterie du Châteauの事業をフランスの麦芽メーカーに統合する案。Soufflet Maltによる欧州でのCountry Malt Group展開の一環

2026年11月11日（水）



Malteries Franco-Belgesは11月10日火曜日、ベルギーのMalterie du Châteauが手がける事業を引き継ぎ、特殊麦芽の生産・流通能力を拡大する計画を検討していると発表した。工業生産を2027年1月からフランスのピティヴィエに移す案だ。

発表は、Soufflet Malt傘下のフランスの麦芽メーカーが、ノジャン＝シュル＝セーヌから規制関連の声明として公表した。同社によると、今回の移転案は、Soufflet Maltが欧州でCountry Malt Groupブランドを立ち上げる決定に関連している。同社はこれを、クラフトビール醸造所や蒸留所のニーズにより近づくことを目的とした、対象を絞った流通モデルと説明した。

声明によると、この計画ではMalterie du Châteauの事業をMalteries Franco-Belges（MFB）に移し、生産をピティヴィエの製麦工場に集約する。同社は、この変更によって特殊麦芽の生産能力を最適化・強化するとともに、欧州のクラフトビール醸造所向け流通事業を引き続き拡大できるとしている。また、Malterie du Châteauが築いてきたブランドと技術的ノウハウを活用する考えも示した。

同社は今回の案について、クラフト市場の競争激化に対応するものと位置づけた。特殊麦芽は、色や風味、香りに独自の特徴を持たせたい醸造家にとって重要な原料であり、蒸留所でも使用される。生産地や流通方法の再編は、欧州の飲料メーカーの調達ルートや納期、仕入れの選択肢に影響する可能性がある。特に、幅広い種類の麦芽を安定して入手する必要がある小規模醸造所への影響が考えられる。

Malteries Franco-Belgesは、移管案の財務条件、ピティヴィエで必要となる見込みの投資額、ベルギーまたはフランスで雇用に影響が及ぶかどうかを明らかにしていない。また、計画の実施に先立ち、従業員や地方自治体、その他の関係者との協議が必要となるかについても、声明では触れていない。

Soufflet Maltは世界有数の麦芽メーカーの一つだ。声明で同グループは、欧州、アジア、アフリカ、オーストラリア、南北アメリカの20カ国で35の製麦工場を運営し、年間360万メトリックトンの麦芽生産能力を有すると説明した。従業員は2,200人を超え、世界的大手のビールメーカーやクラフトビール醸造所、蒸留所、その他の食品・飲料メーカーに製品を供給しているという。

声明によると、同グループはすでに北米でCountry Malt Group、アジアでCryer Maltの流通ブランドを展開している。Country Malt Groupを欧州に導入することで、Soufflet Maltは地域ごとの流通体制をより統一し、生産拠点との連携を強める狙いがあるとみられる。ベルギーからフランスへの移管案は、欧州ネットワーク内で特殊麦芽の生産・供給方法を効率化する、より広範な取り組みを示唆している。

Malteries Franco-Belgesによると、同社は現在、フランスに4つの製麦工場を所有し、中東欧にあるSoufflet Malt傘下企業の一部に少数持分を保有している。同社はユーロネクスト・パリに、ティッカーシンボルMALTで上場している。

発表では、最終決定が下されたとは示されていない。同社は移管を検討中の計画と位置づけ、工業生産の移転は2027年1月に開始する可能性があるとしている。実施前に計画が変更される余地は残されている。

醸造所や蒸留所にとって、この案が注目されるのは、特殊麦芽の供給が商品開発や生産計画と密接に結びついているためだ。クラフトビール醸造所は、特定のビアスタイルを生み出すために麦芽の配合を調整することが多く、生産がベルギーからフランスに移れば、製品の種類が変わらなくても、いずれ発注の傾向や物流に変化が生じる可能性がある。流通業者や飲料メーカーにとって、欧州でのCountry Malt Group立ち上げは、価格と同じほどサービス水準や製品の入手可能性が重視される市場で、Soufflet Maltがより一元化した販売戦略を進めていることも示している。

同社の声明は、今回の計画を生産能力の削減ではなく、強化を目的とするものと説明した。ただし、顧客にとっての実際の影響は、生産をどれほど迅速に移管できるか、Malterie du Châteauの全製

品群が維持されるか、欧州全域でCountry Malt Groupブランドが導入された後に流通体制がどう整えられるかに左右される。こうした詳細は、火曜日の発表では明らかにされなかった。